研究課題	ICT 機器を活用した金融教育カリキュラムの開発と有効性検証
副題	～開発アプリ「学 Pay」を用いた異年齢集団による「附小マーケット」の実践を通して～
キーワード	金融教育，仮想電子アプリ，アントレプレナーシップ
学校/団体 名	国立国立大学法人神戸大学附属小学校
所在地	〒673-0878　兵庫県明石市山下町 3-4
ホームページ	https://www.edu.kobe-u.ac.jp/hudev-akashie

１．研究の背景

近年，クラウドファンディングや電子マネー，仮想通貨など，電子媒体を通した金銭の流通が急速に広まっている。このような社会の変化は，子どもたちを取り巻く環境にも影響を与えている。子どもの世界でもスマートフォンが広く普及し，電子マネーでお小遣いや誕生日プレゼントをもらう小学生も増えてきている。ゲームの課金や SNS への課金などは，本校の子どもたちにとっても日常的な出来事となってきた。

しかし，このような電子媒体を通した金銭の受け渡しは，特に自らの仕事への対価として金銭を受け取ったことのない子どもたちにとって，「お金を使っている」という感覚を得にくいものとなっている。つまり，どのようなサービスや物に対して，どれだけの対価を支払うのが適切かといった思考や，自分にとっての金銭の価値をじっくり吟味する経験が稀薄になっているのである。金銭に対するリアルな感覚や体験が稀薄化している一方で，クラウドファンディングに代表されるように，インターネットを媒体に自分のアイディアや意志を世界に発信し，共感者や賛同者を募ることでお金を集め，思いを形にすることのできる機会が身近で容易なものとなってきている。このような社会においては自らのアイディアで新しい価値を創造したり，社会を変革しようと人と協働しながら取り組んだりする主体的で挑戦的な姿勢が求められると同時に，自らの仕事がどのような価値を生み出しているのか，誰のどのような役に立っているのかを捉え，そしてその対価としての適切な金銭感覚を養うことが一層大切になる。だからこそ，情報リテラシーや金融リテラシー，アントレプレナーシップを併せ育むことが重要であり，お金を扱う機会が急激に増える学童期において 6 年間を通して段階的にアプローチする必要があると考えた。

２．研究の目的

本研究は，児童会活動として行う本校の全校単元「附小マーケット」の学習において，タブレット端末のアプリにおける電子マネー（本校独自通貨「学 Pay」）を用いた金融活動やクラウドファンディングを通したお店の予算獲得の活動を取り入れることにより，情報リテラシーや金融リテラシー，アントレプレナーシップを併せ育むことを意図した。具体的な目的は，以下の通りであった。

①本校の基盤である縦割り班（特別活動における児童会活動）を単位とし，「附小マーケット」の全校単元を行い，6 年間の継続的系統的な金融教育カリキュラムを開発する。その際，他教科との関連もカリキュラムに位置付け，教科横断的な学びを実現する。

②「附小マーケット」に向けた準備を通して，人と協働する楽しさや大変さを味わうことと，その結果としての金銭の授受を電子媒体によって行うということを合わせて経験することで，電子媒体を通した金銭の授受に対してもリアルな実感を伴った金銭感覚を育む。

③電子決済にアンケート機能を搭載したアプリを開発することで，稼げた金銭の多寡によってのみ自分たちの活動を評価するのではなく，お客側からのフィードバックを適時把握し，それを踏まえて班ごとに成長や改善を目指すという自己評価活動のあり方を確立する。

④保護者もお客として学習に参加し，アンケートを通して子どもたちの活動にフィードバックを行うことで，学校と保護者が学習の目的を共有した上で全校的な自治的活動に参画し，共に学校すべての子どもを育む教育活動を推進する。

⑤各班の予算をクラウドファンディングの結果によって追加する活動を行うことで，新しいアイディアを生み出す面白さや主体的挑戦的な姿勢を育む。

３．研究の経過

年	月	取組内容	備考
2022	5 月	児童・保護者向けアンケートの作成開始	・金融教育の事前と事後の効果を測るアンケート
	6 月	仮想電子マネーアプリ「学 Pay」の開発	・全学年単元「附小マーケット」で使用するためのアプリ
		全校単元「附小マーケット」の実施計画立案	・特別活動の年間カリキュラムと本実践の位置づけ ・単元の具体的な指導計画
	9-10 月	1 年次事前アンケート（児童・保護者対象）の実施	・児童：ロイロノート ・保護者：グーグルフォーム
	11 月	仮想電子マネーアプリ「学 Pay」の完成	
		全校単元「附小マーケット」の実施	・初年次「附小マーケット」 ・アプリを活用した金融活動
	12-3 月	金融教育カリキュラム目標一覧作成	
	1 月	金融教育カリキュラム授業実践（道徳）	・1 年生道徳における実践
	2 月	公開研究会（KU 学会）における本研究の発表	
		金融教育カリキュラム授業実践（家庭科）	・5 年生家庭科における実践
	2-3 月	1 年次事後アンケート（児童・保護者対象）の実施	・児童：ロイロノート ・保護者：グーグルフォーム
2023	4-5 月	1 年次事前および事後アンケート（児童・保護者対象）の結果分析	
	7 月	金融教育カリキュラム授業実践（道徳）	・4 年生道徳における実践
	7-10 月	全校単元「附小マーケット」の実施計画の改善	・前年度ふりかえりを踏まえた計画 ・対面ファンディングの計画
	10 月	2 年次事前アンケート（保護者対象）の実施	・保護者：グーグルフォーム
	11 月	全校単元「附小マーケット」の実施	・二年次「附小マーケット」
	12 月	金融教育カリキュラム授業実践（家庭科）	・6 年生家庭科における実践
	2 月	公開研究会（KU 学会）における本研究の発表	
	3 月	金融教育カリキュラム授業実践（生活科）	・2 年生生活科における実践

2022 年度の前半期は，アプリ開発，全校単元「附小マーケット」の計画を通して，本研究の基礎を形成した。2022 年度後期からは，「附小マーケット」に留まらず，多様な教科における金融教育カリキュラムの整理を行い，2023 年度にかけてカリキュラムの実践化を進めていった。また，コロナ禍には叶わなかった全校生の一同集会が 2023 年度には可能になり，全校生の対面ファンディングの準備と実施を行った。

４．代表的な実践

■全学年単元「附小マーケット」の新設

本研究は，1～6 年生で構成する縦割り班ごとに各自のアイディアを基に出店し，全校で「附小マーケット」を創り上げるという全校単元において実践した。本校では，年間を通して児童会活動に取り組んでおり，運動会や遠足，日々の清掃活動もすべて縦割り班で行っている。各班の班長は，定期的に班長会議を開いて班運営や学校全体の実態について話し合い，年間を見通した計画的な班づくりに取り組んでいる。また，班長会議を担当する教員の役割は校務分掌に位置づけられており，全教員と班長との橋渡しを行いながら，児童会活動の運営をリードしている。このような緻密で組織的な児童会活動において，次のように「附小マーケット」の単元を新設した。

（１）班ごとにお店のアイディアを出し合う。
（２）全校で集まって各班がお店の内容をプレゼンし合い，児童同士が互いにクラウドファンディングを行う。
（３）クラウドファンディングの結果に応じて予算が加算され，その予算の範囲内で具体的な出店の準備を進める。
（４）「附小マーケット」を開催し，お店側とお客側を交代して経験したり，保護者をお客として招待したりする。「附小マーケット」におけるお客側の支払いは，タブレット端末のアプリを通して行う。アプリ内では支払いと同時にアンケートが行える機能をつけることで，お客側が感じた嬉しさや満足感とその理由をお店側に適時フィードバックする。
（５）お客側から受け取ったフィードバックの内容を班の仲間と読み合いお店の運営に反映させたり，「附小マーケット」の準備や当日の自分たちの頑張りを振り返ったりすることを通して，班の仲間と一緒に活動を創り上げたことを喜び合ったり嬉しく感じたりする。

二年次の 2023 年度には，全校生が一堂に会してファンディングを行うことができた。それぞれのお店のアイディアとアピールポイントを伝え合い，子どもたち一人ひとりが票を入れた。この票数に準じて，各班の予算が決まっていった。二年次には，短い時間で何をアピールするのかという点にも子どもたちの意識が向き，分かりやすく伝わりやすいアピールの工夫がなされた。

また，一年次の反省を踏まえ，二年次には「附小マーケット」の前日に，ペア班での交流時間を設けた。この交流では，ペア班にお客側の体験をしてもらい，お客側の視点でアドバイスをもらった。これにより，当日のお店の工夫の質をより高めていくことができた。

■仮想電子マネーアプリ「学 Pay」の開発

本校の金融教育の根幹となる全校単元「附小マーケット」で用いるアプリ「学 Pay」は，以下の手順で用いることができるアプリとなった。

1. 教員が管理画面からチャージ用の QR コードを作成する
2. 児童が自分の端末でチャージ用 QR コードを読み取り，お金をチャージする
3. お客側の児童がお店に行き，サービスや商品の金額を入力し，その情報が含まれた QR コードを作成する
4. お店側の児童が 3 で作成したお客側の児童の QR コードをお店側の端末で読み取り，売り上げ金とアンケートの回答を受信し，情報をお店側の端末に蓄積する
5. 商品の受け渡し後，「売買成立」ボタンを押すことでお客側の児童の残金を減らす

アプリには，お客さんが決済時にお店のサービスや商品について評価したり感想を記入したりすることができるアンケート機能を搭載した。これにより，お客側からのフィードバックを基にしたお店の改善を行うことが随時できるようになった。

■金融教育カリキュラムの開発

全学年単元「附小マーケット」を柱とした「金融教育カリキュラム」を概観できるよう，4 分野における各学年の目標を設定し，6 年間の系統的な金融教育カリキュラムの骨子を形作った。さらに，4 分野および学年ごとに設定した各目標について，どのような教科，単元で実践化することができるのかを明確にすることを目的に，教科名，教科書会社と単元名，学習内容を各目標に対応させる形で整理した。

（3）各学年の分野ごとの目標　○目標　【　】教科　『　』単元名　▸内容

学年	A生活設計・家計管理に関する分野（お小遣い，貯蓄）	B金融や経済の仕組みに関する分野	C消費生活・金融トラブル防止に関する分野	D キャリア教育に関する分野
1 2	○ものやお金の価値を知り，大切にしようとする【道徳】 ☞指導案❶ 『ものや おかねを たいせつに』（光村図書） ▸物（上靴袋）に込められた思い ▸身の回りの物やお金の大切さ			○家の手伝いをすることで役立つ喜びを感じる【生活科・道徳】 『わたしにできること』（道徳：光村図書） ▸家族の一員として自分にできること 『ひろがれ えがお』（生活科：啓林館） ▸家族のお仕事 ▸家族のために自分にできること ○働く人々の工夫や努力，素晴しさに気付く【生活科】 『町の すてき つたえたい』（啓林館）☞指導案❷ ▸町の人の願い ▸町の人の工夫 ▸町のおすすめ
3	○ものやお金には限りがあることやお金の大切さを理解する【社会科】 『はたらく人とわたしたちのくらし』（東京書籍） ▸消費者の願い ▸買い物をする店の選び方や買い物の工夫	○消費者がものの値段を一つの目安として購入することを踏まえ，販売の仕事をする人は値段の付け方を工夫していることを理解する【社会科】 『はたらく人とわたしたちのくらし』（東京書籍） ▸スーパーマーケットの売り場で見られる工夫 ▸生産や値段に関わる仕事とわたしたちの生活のつながり		○お店の人や働く人の願いを知り，様々な苦労や工夫をしていることに気付く【社会科】 『はたらく人とわたしたちのくらし』（東京書籍） ▸スーパーマーケットの売り場で見られる工夫 ▸販売や生産に関わる人の思いと工夫や努力
4			○安全や環境に配慮した消費生活の大切さに気付く【道徳】☞指導案❸ 『インターネットの落としあな』（光村図書） ▸インターネットショッピングの便利さ ▸インターネットショッピングの危険性	
5	○ものやお金には限りがあることを理解し，工夫した買い物の仕方やお金のよりよい使い方を考える【家庭科】☞指導案❹ 『生活を支えるお金と物』（開隆堂） ▸買い物をする前に考えておくこと ▸上手な買い物の仕方の工夫	○農業や工業で働く人々の工夫や努力について，価格や費用を含めて理解する【社会科】 『わたしたちの生活と食料生産』（東京書籍） 『わたしたちの生活と工業生産』（東京書籍） ▸食料や工業生産に従事している人々の工夫や努力 ▸生産地と消費地を結ぶ運輸 ▸生産，輸送，販売などの活動に対する費用発生 ▸農業や工業と国民生活のつながり ○販売の仕事では情報を活かして商品を選んでいることを理解する【社会科】 『情報化した社会と産業の発展』（東京書籍） ▸電子マネーやポイントカードの利用のされ方	○安全や環境に配慮した消費生活の大切さを理解し，ものの選び方や買い方を考える【家庭科】 『生活を支えるお金と物』（開隆堂） ▸買い物の仕組み ▸商品についている表示やマーク ▸環境に配慮した買い物の仕方 ○情報を適切に活用し，正しく選択する力を身に付ける【社会科】 『情報化した社会と産業の発展』（東京書籍） ▸各メディアの特徴 ▸メディアにおける情報の収集や選別の工夫 ▸情報被害の問題	○産業に従事する人々は，工夫や努力をしてよりよい製品を生み出していることを理解する【社会科】 『わたしたちの生活と食料生産』（東京書籍） 『わたしたちの生活と工業生産』（東京書籍） ▸食料生産や工業生産に従事している人々の思いと工夫や努力
6		○税金の主な種類とその意義やしくみについて理解する【社会科】 『わたしたちの生活と政治』（東京書籍） ▸税金の集められ方 ▸税金の使われ方 ▸税金の意義と生活とのつながり		○自らの夢を描き，実現に向けて努力する態度を身に付ける【道徳】 『夢に向かって』『目標をもってやりぬく』（光村図書） ▸夢や目標をもち続けることの大切さ ▸夢や目標を実現するために必要なこと ○実社会の様々な分野で働く人々が自分たちの生活に重要な役割を果たしていることを社会の一員として考え，協力しようとする気持ちをもつ【社会科】 『わたしたちの生活と政治』（東京書籍） ▸福祉の役割や復興に向けた市民の取り組み ▸まちづくりに向けた人々の思い ○地域や社会のための活動の存在や内容を知り，または体験することを通じてその意義に気付く【家庭科】☞指導案❺ 『共に生きる地域での生活』（開隆堂） ▸地域と自分の生活の関わり ▸地域の人と関わるために自分にできること
全学年	○自分のタブレットにチャージしたお金を計画的に使おうとする【特活】	○お客さんの需要を考えた商品やサービスを考え，クラウドファンディングを通して資金を得るという金融のしくみや流れを理解する【特活】	○安全や環境への配慮などお店側の工夫を理解してお金を使うお店を決めたり，アンケートへの回答をしようとしたりする【特活】	○お客さんに喜んでもらえるように工夫や努力をすることの大切さややりがいを感じることができる【特活】

また，その中でも，本校の校内研究会で実践・検討した事例については，指導案集にしてまとめることとした。このように，金融教育カリキュラムにおいて，目標と学習内容の結びつきを可視化し，その事例を指導案レベルで示すことによって，汎用的に様々な学校で用いることができる金融教育カリキュラムへと改善していった。

５．研究の成果

本研究の成果は，次の五点であった。

①児童会活動としての単元「附小マーケット」と他教科における 6 年間の金融教育カリキュラム，およびその実践事例の指導案を作成した。

②本研究の事前アンケートにおいて把握した児童の金融リテラシーの実態に合わせた実践を行った。その具体は，①の実践事例の指導案としてまとめた。

③「附小マーケット」では，3 ターム を設け，ターム間に行うふりかえりにおいて，アプリを通して記入されたお客側からのフィードバックを根拠に改善案を話し合う時間を設けた。また，「附小マーケット」のふりかえりでも，お客側のフィードバックを根拠にすることで，自分たちの成長や改善はどのようなことが要因となっていたのかを自覚できるようにした。

④「附小マーケット」当日だけでなく，保護者が懇談会や通信等を通して，本研究を理解し学校教育に関わった実感を得る機会を設けた。

⑤ファンディングを行って全班のお店のアイディアを互いに知り合う機会をつくったり，ペア班で互いの店を体験し合う機会をつくったりするなど，新たなアイディアを創出することの面白さを感じられるようにした。

また，これらの研究成果を評価する指標として実施した「金融教育カリキュラムアンケート」の結果からは，次の点において示唆を得た。

成果と課題
～児童アンケートの結果分析より～

▸低学年

・電子マネー・スマホ決済を使う児童が増加
・電子マネー・スマホ決済で使いすぎたり，必要性を考えずに使ったりする児童が増加
・お金の流通の仕組みや電子マネーおよびスマホ決済の仕組みに興味をもつ児童が減少
☞低学年に焦点を当てたより長期的な金融教育が必要

成果と課題
～児童アンケートの結果分析より～

▸中・高学年

・電子マネー・スマホ決済を使う児童が減少
・お金の流通の仕組みや電子マネーおよびスマホ決済の仕組みに興味をもつ児童が増加
☞電子マネー・スマホ決済の利用に慎重になっているか
☞金融教育の効果として，お金の流通の仕組みや電子マネーおよびスマホ決済の仕組みへの興味関心は高まっている

６．今後の課題・展望

今後は，今回開発した仮想電子マネーアプリ「学 Pay」および金融教育カリキュラムをより広く発信していくことに特に力を入れていきたい。また，今後も引き続き ICT の効率的・効果的な活用を推進していくことにより，学校の情報化を進展させていくことに努めていきたい。

７．おわりに

今回の研究では，アプリ開発から全校の新単元開発，また，6 年間の金融教育カリキュラムの開発を行い，一つの学校としては大規模な実践的取組となった。このような取組は，学校だけの努力では成し得ないものであった。本研究を支えてくださったすべての方に，感謝を申し上げたい。また，本研究が，躍進する ICT と共に未来を生きる全国の子どもたちの教育に資する先進的な取組として寄与していくことを願っている。

８．参考文献

・金融広報中央委員会『金融教育プログラム― 社会の中で生きる力を育む授業とは ―』(2023 年)